祝入賞

ねんりんピック栃木2014

宮城県勢が健闘

栃木県で開かれた「ねんりんピック栃木2014」では22種目のスポーツ・文化交流大会が行われ、宮城県選手団139人も日頃の練習の成果を存分に発揮し、健闘した。1面に引き続き、入賞者に受賞の喜びを聞いた。

団体戦　6位　囲碁　桜

優勝できず悔い残る

囲碁団体は1チーム3人。スイス方式で1人4局ずつ対局し、3人の勝敗数で順位が決まる。白石市の佐々木忠法さん(61)と柴田町の阿部績さん(82)が3勝1敗、名取市の吉岡幸子さん(63)が2勝2敗の計8勝4敗で6位になった。

「優勝を目指していたので少し残念。対戦相手が年上だったから、油断したかも」と初出場の佐々木さんは笑う。今大会が4回目となる阿部さんは高齢者賞を受賞した。「99歳の人がいたのにはびっくり。私も元気に続けていきたい」と前向きだ。

吉岡さん

左から佐々木さん、阿部さん

5キロ女子(60～69歳の部)　6位　マラソン　千葉 正子さん(67)

気力で完走し入賞

千葉さん

体調が万全ではなかったが気力で完走し6位入賞。「レース途中で脇腹に痛みを感じ、ペースががくっと落ちてしまいました。いつもの体調だったら優勝を狙えたはず」と悔しさをにじませる。

初マラソンは52歳の時。地元の名取市で開かれた市民マラソンだった。3日ほどの練習で2位になり、マラソンの楽しさに目覚めると同時に「レース後は、くたくただった」と体力のなさを実感。そこから持久力を付けるために週3日程度走るようになった。その後、3～5キロの短距離を中心に、いくつかの大会で経験を積み、2年後に初優勝を飾った。

最近は全国各地の大会に年20回余り参加している。入賞して得た盾やトロフィーは260個を超える。「他の参加者に『千葉さんも出るのか～』と、がっかりした表情で言われることもしばしばです」と苦笑する。

現在は、約30分のランニングをほぼ毎日、クロスカントリーを週2回ほど行い、ライバルたちに一気に差を付ける持ち味のラストスパートに磨きをかける。「目標は80歳まで、楽しみながら走っていきたい」

団体戦　7位　ダンススポーツ　宮城県

実力あるメンバーが集合

今回宮城県の団体として出場したメンバーの8人は、それぞれ18～43年間ダンススポーツを続けていて、週に一度仙台市内の教室に通っている。ダンススポーツには10段階の級があり、全員がトップクラスのA、B級の選手だ。

今大会では1～3次審査、準決勝を勝ち抜き、決勝で7位に入賞した。「ダンススポーツは関東の団体が強く、その中に食い込めるとは思わなかった」と話すのは監督兼選手の千葉三郎さん(65)。

審査では、ワルツ、タンゴ、チャチャチャ、ルンバの競技に男女一組ずつ挑む。ワルツは華麗さ、タンゴは動きの切れといった競技ごとの特性とリズム感、踊った時のカップルバランスなどが評価され、点数が付く。

チャチャチャに出場した野田美智子さん(60)は「団体戦なので、点数で足を引っ張らないようにとプレッシャーを感じた」と話す。全員が「チームのために貢献しなければ」との思いで踊ったという。2年後のねんりんピックに、また同じチームで出場し、優勝するのが目標だ。

左から野田文正さん(64)、野田美智子さん、狩野守志さん(60)、遠藤明美さん(60)、日野寿子さん(60)、高城義広さん(66)、千葉洋子さん(60)、千葉三郎さん(65)、宮城県ダンススポーツ連盟事務局長の千葉則雄さん